

令和6年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

「北九州市立図書館の運営に関する評価」の実施について

1 評価実施の趣旨

図書館法第7条の3の規定に基づき、市立図書館全体の評価を実施し、図書館運営の改善を行うことで、市民にとってより身近な図書館を目指し、その利用を促すものとする。

なお、すでに指定管理者制度として評価を行っている地区図書館・分館を含め、指定管理者評価制度との整合性を図りながら、市立図書館全体で評価を実施する。

2 評価実施の背景

(1) 図書館法改正(平成20年)により、「評価を実施し必要な改善に努めること」が新たに明記されたこと。

図書館法(平成20年6月改正)

(運営の状況に関する評価等)

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない

(2) 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改正(平成24年)により、「図書館サービスその他図書館の運営の状況について自ら点検及び評価を行うように努めること」とされ、「図書館協議会などにより第三者評価に努める」「インターネット等で、積極的に公表するよう努める」ことが明記されたこと。

図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年12月改正)

第二 公立図書館、一 市町村立図書館、1 管理運営

(二) 運営の状況に関する点検及び評価等

① 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営状況について、
(一)の②の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

② 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。

③ 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

④ 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワークをはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

(3) 北九州市立図書館協議会から答申された「これからの図書館サービスのあり方」(平成28年7月)において、「開かれた図書館づくり」で運営に関する評価の実施を掲げていること。

3 実施方法

(1) 対象施設 全ての市立図書館

(2) 評価方法

現状分析

- ア 「基本的な方向性と目標」の達成状況の把握
- イ 「これからの図書館サービスのあり方」の 5 つの視点・48 の事業及び新規事業の取組状況の把握

図書館評価

「これからの図書館サービスのあり方」の 5 つの視点ごとに、自己評価

北九州市立図書館協議会評価

図書館法に基づく付属機関である「北九州市立図書館協議会」の評価

公表

評価結果をホームページ等で公表

改善

- ア 改善すべき点の把握を行い、課題を整理し、課題解決に向けて何が必要かを検討する。
- イ 検討にあたっては、図書館協議会の意見や費用対効果を考慮しながら、市立図書館全体の視点で検討する。

4 スケジュール

- 令和 7 年 8 月 令和 6 年度の図書館評価のまとめ
図書館協議会にて自己評価報告及び意見聴取
- 令和 7 年 9 月 評価結果をホームページ上で公開（予定）

北九州市立図書館協議会委員

区分	氏 名	所属団体役職名
学校教育関係者	うえみつ よしこ	北九州市学校図書館協議会会長
	上満 佳子	吉田小学校校長
	たまる のりこ	北九州市学校図書館協議会副会長
	田丸 陞子	大蔵中学校校長
	いしかわ かずひと	福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長
	石川 一仁	福岡県立小倉高等学校校長
	ありた ゆうこ 有田 裕子	(一社) 北九州市私立幼稚園連盟理事
家庭教育の向上に 資する活動を行う者	ふくだ ゆりか	(一社) 北九州市P T A協議会相談役
	福田 百合加	
	いがら まさひろ	(一社) 北九州市保育所連盟副会長
	伊賀良 昌宏	
	さわの あゆみ	公募委員
	澤野 亜由美	
	おだむら ふくたろう 尾田村 福太郎	公募委員
社会教育関係者	みやもと かずよ	北九州市社会教育委員
	宮本 和代	
	かきうち よしこ	北九州市婦人団体協議会理事
	柿内 よし子	
	もり きよこ	北九州市障害福祉団体連絡協議会事務局長
	森 聖子	
	やぎ まなえ 八木 真恵	北九州児童文化連盟理事
学識経験者	あさば のぶたけ	北九州市立大学図書館長
	浅羽 修丈	
	やまぐち あきよし	九州国際大学図書館長
	山口 秋義	
	きたじま ともみ	(公財) 北九州産業学術推進機構 中小企業支援センターマネージャー
	北嶋 知美	

北九州市立図書館の運営に関する評価

I 「これからの図書館サービスのあり方について」(平成28年答申)における基本的な方向性

1 これまでの図書館サービス(図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど)をさらに充実させる。

市民のニーズに応えるため、『知の拠点』として、図書・資料の“数”はもとより、図書・資料やサービスの“質”を、さらに高めていく。

2 市民が抱える課題の解決を支援する。

市民が抱える課題が何かを正確に把握し、レファレンスサービスなどを通して、市民のニーズに合った質の高い図書・資料を提供する。さらに、市民のニーズに応じた講演会や講座の開催、関係機関との連携など、課題の解決を支援する。

3 子どもの読書活動を積極的に推進していく。

『知の拠点』である図書館の図書・資料などの情報を活用するとともに、学校等の関係機関と緊密に連携しながら、子ども読書活動の推進のために大きな役割を担っていく。

II 総括

① 答申における基本的な方向性に対する令和6年度の達成状況

1 これまでの図書館サービス(図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど)をさらに充実させる。

●各館において、本市ゆかりの人物の著作や本市の郷土に関する資料を、購入・寄贈により積極的に収集した。

●各館において、障害のある方や高齢者をはじめ、多様な市民のニーズに応じた資料をバランスよく収集した。

●図書館以外で本を借りられる環境の充実として、ヒアリング等により利用者ニーズを把握しながら、ひまわり文庫や貸出文庫への継続的な配本とその周知を行った。

●北九州市立子ども電子図書館の利用増を目指し、大人向けの電子書籍の追加、利用登録における手続きの電子化などに取り組んだ。

●中央図書館のフリーWi-Fiを新サービスへ移行し、利用環境の向上を図るとともに、未整備館への今後の導入について検討を進めた。

●中央図書館では、よりくつろげる空間の創出を目指し、エントランスホールのレイアウト変更等を行った。

2 市民が抱える課題の解決を支援する。

●各館で受けたレファレンス事例を随時 国立国会図書館レファレンス協同データベースに登録し、市立図書館にデータベースへのリンクを公開した。

●各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ。

●各館において、ゲートキーパー養成講座、無料経営相談会、ビジネス支援セミナーなど、課題解決支援のための多彩な講座を開催した。

●各館において、地域の特性や地域住民のニーズに応じたコーナー設置等を行ったり、講演会を開催したりするなど、特色のある図書館づくりに取り組んだ。

3 子どもの読書活動を積極的に推進していく。

●子ども図書館を中心に、各館の児童室等において、子ども向けの図書・資料とあわせて、大人も利用できる子育てや家庭教育支援用の図書・資料を充実させた。

●子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせ会やおはなし会などを充実させた。また、「はじめての絵本事業」では、他部局と連携して絵本パックを直接家庭に届けた。

●子ども図書館で「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」を開催し、地域で読み聞かせを行う人材の育成に努めた。また、講座を修了した読み聞かせボランティアや図書館司書を学校や子育て関連施設に派遣した。

●学校等に対し、団体貸出や学校貸出図書セットなどの学校向けサービスについて機を捉えて周知するとともに、地区館・分館で作成した「図書館だより」を配布した。

●北九州市子ども読書の日に際し、各館において様々な趣向を凝らしたイベントを実施し、図書館に行っていない子どもにとっての来館の機会等を提供した。

②総合評価

北九州市立図書館では、令和6年度に北九州市立図書館協議会から「これからの図書館のあり方について（答申）」を受けた。それを踏まえ、社会変化や市民のニーズに対応し、より多くの市民に利用していただける図書館となるよう、令和7年度を開始年度とする「北九州市立図書館基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定した。令和6年度は、基本計画策定に向けて実施した市民アンケートや協議会からの答申の内容なども踏まえて、くつろいで読書ができる環境やネットワーク環境の整備、電子図書館の充実など、利用者へのサービスのより一層の充実に努めた。これらの取組も含め、全52項目のうち終了・完了事業を除く48項目について評価した結果は下表のとおりとなった。

事業別評価集計表						
	A評価	B評価	C評価	D評価	評価実施項目数	終了・完了
令和6年度	9	38	1	0	48	4
令和5年度	6	41	2	0	49	3

前年度に比べ、全体的に評価は上昇している。これは、前年度までの評価に基づくサービスの充実・運営の改善を行ったことや、答申や基本計画等を踏まえて新たな取組を行ったことによるものである。また、前年度実績と比して貸出者数や貸出冊数は減少したが、来館者数やレファレンス件数は増加し、利用者満足度も高水準を維持できていることなどから、利用者の求めに応じたサービスは一定の水準を維持できたことがうかがえる。

今後、北九州市立図書館が市民にとってさらに親しまれる図書館を目指して、この評価も生かしながら、基本計画を推進していく。

《参考資料》

【利用状況の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
貸出者数	884,802人	586,697人	735,967人	796,270人	775,799人	759,101人
貸出冊数	3,373,322冊	2,372,399冊	2,963,785冊	3,087,429冊	2,989,265冊	2,885,042冊
来館者数	2,276,653人	1,077,811人	1,512,386人	1,901,535人	1,894,079人	1,948,157人
レファレンス件数	32,737件	20,648件	23,963件	30,864件	33,833件	35,273件
人口1人当たりの貸出冊数	3.61冊	2.54冊	3.20冊	3.36冊	3.29冊	3.20冊

※貸出者数と貸出冊数は、市内14館の「個人貸出」（ひまわり文庫や北九州市子ども電子図書館は除く。）が対象。
※人口は、対象年度の翌年度4月1日時点の推計人口（例：令和元年度の場合、令和2年4月1日時点）。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、以下の期間に臨時休館を行った。
令和2年2月28日～5月31日（94日間）、同6月3日～6月23日（21日間）、令和3年5月12日～6月20日（40日間）
※図書館情報システム更新のため、令和5年8月31日～9月6日（7日間）に臨時休館を行った。

【アンケートによる利用者満足度の状況（「非常に満足」「満足」の割合）】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①本の品ぞろえ	87.7%	87.8%	88.8%	89.8%	89.7%
②本の探しやすさ	91.7%	92.9%	92.9%	93.6%	93.0%
③調べ物の役立ちさ	82.6%	90.0%	94.5%	93.9%	94.7%
④展示・行事の内容	79.4%	87.3%	94.1%	92.9%	94.2%
⑤対応の親切さ	92.6%	94.3%	99.0%	99.0%	99.5%
⑥説明の分かりやすさ	87.6%	90.9%	98.4%	98.5%	99.1%
⑦過ごしやすさ	-	-	-	-	98.7%
平均	86.9%	90.5%	94.6%	94.6%	95.6%

※ ⑦は令和6年度からの新規調査項目として追加。
※ 令和元年度は、調査を実施していない。
※ 令和6年度アンケート回収数 2,206件（15歳以下：565件、16歳以上：1,641件）

Ⅲ 事業別評価及び取組状況

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方について」（平成28年答申）の中に示された5つの視点に立った事業を行っている。その具体的取組48項目（終了・完了事業を除く）について、下記の基準を設けて評価を行った。

<評価の基準>

A	取組みに前進が見られるもの（新たな取組みが行われた、あるいは、実績が高水準を維持したか伸びたなど、大変順調である）。
B	現状維持レベルのもの（継続的・安定的に取組みが行われたり、あるいは、実績が一定水準で維持されたなど、順調である）。
C	予定通りに進まなかったもの（予定通りに進まなかったり、実績が下降傾向にあったりするなど、やや遅れている）。
D	全く進展がなかったもの（全く進展がなかったり、取組みが行われていなかったりするなど、遅れている）。

視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※「図書館評価」の（ ）内は、前年度（令和5年度）の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(Ⅰ) 文学館などの文化施設との連携	①文化施設の情報発信 図書館評価 B(B)	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	【取組状況】 ●各館において、自然史・歴史博物館、美術館、文学館、漫画ミュージアムなど各種文化施設のチラシ・会報設置、ポスター掲示等を行うとともに、施設の催事に連動した図書資料の展示を行った。 【評価の理由】 ●関連図書展示を実施するとともに、継続して多くの文化施設と連携し、情報の収集や発信に努めた。取組については前年度と同程度の水準を維持したため「B」評価と判断した。
	② 最寄りの文化施設との連携 図書館評価 B(B)	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	【取組状況】 ●各館で最寄り施設の広報物の館内設置、施設の催事に連動しての広報物掲示及び関連図書展示を行った。 ・中央図書館：平和のまちミュージアム、松本清張記念館 など ・門司図書館：出光美術館門司、九州鉄道記念館 など ・若松図書館：河伯洞、火野葦平資料館 など ・八幡図書館：やはたアートフォレスト参加施設、自然史・歴史博物館 ・八幡西図書館：ひびしんホール、子どもの館 など ・戸畑図書館：美術館 ・八幡南分館：長崎街道木屋瀬宿記念館 など ●子ども図書館では、自然史・歴史博物館の企画展「絵本でたどるいのちのふしぎ展」に、かこさとしの絵本や自然や動物に関する絵本を多数貸出しするとともに、特設展示コーナーを作り、関連する絵本や児童書などの貸し出しを行った。 【評価の理由】 ●最寄りの文化施設と連携した情報発信を継続して行うことができたため、「B」評価と判断した。

視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 文学館などの文化施設との連携	③地元ゆかりの作家作品の充実 図書館評価 B(B)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	【取組状況】 ●中央図書館の北九州資料室を中心に、利用の多い松本清張作品の買替えや本市ゆかりの人物の著作を購入するなど各館において福岡県・北九州市ゆかりの作家の著作を積極的に購入し、充実を図っている。 ●各館において、地元出身作家などのコーナーを設け、関連資料の展示を引き続き行った。 ・中央図書館：特設文庫「松本清張文庫」 ・子ども図書館：「私たちのまちの児童文学コーナー」「ふるさと再発見コーナー」、「元NHK交響楽団特別コンサートマスター・篠崎史紀氏の著書紹介コーナー」 ・門司図書館：「佐木隆三コーナー」 ・小倉南図書館：「藤田博士顕彰コーナー」 ・若松図書館：「火野葦平コーナー」、「中村哲関連本コーナー」 ・八幡図書館：「みずかみかずよコーナー」 ・戸畑図書館：「宗左近記念室」 など 【評価の理由】 ●地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰が引き続き図られていることから、「B」評価と判断した。
	④文化施設とのネットワークの構築 令和2年度終了事業	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	
(2) 他施設との連携	⑤大学図書館との連携 図書館評価 B(B)	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	【取組状況】 ●協定に基づき、北九州市立大学とは相互貸借・閲覧(複写)・貸出連携を、九州国際大学とは閲覧(複写)・貸出連携を行った。 ●協定の締結がない市内6大学(九州工業大学・九州共立大学・九州歯科大学・西日本工業大学・九州女子大学・産業医科大学)と閲覧(複写)連携を行った。 ●協定の締結がない市外2大学(九州大学・福岡県立大学)と相互貸借連携を行った。 【評価の理由】 ●協定を締結している2大学に加え、締結していない8大学と連携を行っており「B」とした。

視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 他施設との連携	⑥大学との連携 図書館評価 B(B)	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	【取組状況】 ●各館において、九州工業大学、令和健康大学、中村学園大学、梅光学院大学、長崎外語大学等から講師を招いての講座・イベントを開催した。 ●中央図書館では北九州市立大学と連携してトークイベント「図書館で語ろう!「学ぶ」理由を多世代で考える」を開催した。 ●子ども図書館では、「北九州市子ども読書の日」に北九州市立大学の学生が参加し、平和に関する資料展示を行った。 また、九州女子大学が、教育委員会と非営利活動法人VIVITA JAPANが共同実施した「絵本の内容作りワークショップ」に参加した。 ●中央図書館、子ども図書館、八幡図書館、八幡西図書館及び折尾分館において、九州女子大学司書課程の学生と相互協力関係の下、図書館見学・ボランティアの受入、イベント開催支援、特別展示作成など、様々な事業を行った。 【評価の理由】 ●大学教員を講師に招いての講座や学生と協力した行事を開催するなど、引き続き連携に努めたため、「B」評価と判断した。
	⑦市立図書館間のネットワーク(連携)機能の充実 図書館評価 B(B)	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	【取組状況】 ●全ての市立図書館の館長が参加する図書館連絡会議を開催し、各館との意見交換や情報共有を行うことで、連携強化に努めた。特に、令和6年5月21日の全市立図書館指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)指定を受け、図書館連絡会議で協議のうえ、マニュアルを整理し、熱中症特別警戒アラート発生時に対応できる体制を整えた。併せて、事件・事故・災害などの危機管理時の連絡体制についても再徹底を図った。 ●地区図書館の選書担当者が参加して毎週開催する選書会議の場を活用して、新刊図書や推薦図書に関する情報をはじめ図書館サービスに関する様々な情報を全ての図書館と共有した。 ●子ども図書館は、学校との連携等について情報を共有し取り組みのベクトルを揃えるため、「児童サービス担当者会議」を開催し連携を図った。 ※令和6年度開催回数4回 【評価の理由】 ●中央図書館及び子ども図書館を中心とした市立図書館のネットワークを生かした取組を実施することができたため、「B」評価と判断した。
(3) 身近なネットワークの構築	⑧市立図書館における観光情報などの提供 図書館評価 B(B)	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	【取組状況】 ●各館においてイベントチラシ・パンフレット・広報誌・マップ設置、ポスター掲示、イベント関連図書展示等を行った。 【評価の理由】 ●各図書館において継続して情報の収集・提供を行い市の魅力発信に努めたため、「B」評価と判断した。

視点Ⅰ 多様な施設とつながる図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																																										
(3) 身近なネットワークの構築	⑨ ひまわり文庫の充実 図書館評価 B (B)	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	【取組状況】 ● 市民センター等担当者との情報交換、利用者からのリクエストや貸出し傾向等によってニーズを把握し、利用が見込まれる図書の購入・配本に努めた。 ● 他館からの管理換えや寄贈図書の受入れなどにより、図書の再活用とひまわり文庫蔵書の充実に努めた。 ● ひまわり文庫の広報チラシを作成し、各市民センター等に配布した。また、図書館HPにひまわり文庫専用ページを作成した。そのほか、教育委員会広報紙「未来をつなぐ」に記事を掲載する等、ひまわり文庫のPRに努めた。 【評価の理由】 ● 図書館に来館することが困難な市民にとっては、市民センター等でひまわり文庫が利用でき、市民が身近に図書館の本を借りることができる場となっている。貸出者数、貸出冊数ともに前年度と同レベルを維持しており、図書館を補完する役割を果たしているとして「B」評価と判断した。 【ひまわり文庫の状況】 <table><tr><th></th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th></tr><tr><td>設置施設</td><td>129か所</td><td>128か所</td><td>128か所</td><td>128か所</td><td>128か所</td><td>128か所</td></tr><tr><td>配本数</td><td>67,312冊</td><td>73,751冊</td><td>67,735冊</td><td>64,779冊</td><td>68,066冊</td><td>71,717冊</td></tr><tr><td>1か所当たり配本数</td><td>522冊</td><td>576冊</td><td>532冊</td><td>506冊</td><td>532冊</td><td>560冊</td></tr><tr><td>年間貸出者数</td><td>24,538人</td><td>23,639人</td><td>17,623人</td><td>19,771人</td><td>19,346人</td><td>19,434人</td></tr><tr><td>年間貸出冊数</td><td>50,568冊</td><td>55,490冊</td><td>39,864冊</td><td>42,455冊</td><td>40,418冊</td><td>39,570冊</td></tr></table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	設置施設	129か所	128か所	128か所	128か所	128か所	128か所	配本数	67,312冊	73,751冊	67,735冊	64,779冊	68,066冊	71,717冊	1か所当たり配本数	522冊	576冊	532冊	506冊	532冊	560冊	年間貸出者数	24,538人	23,639人	17,623人	19,771人	19,346人	19,434人	年間貸出冊数	50,568冊	55,490冊	39,864冊	42,455冊	40,418冊	39,570冊
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																																					
設置施設	129か所	128か所	128か所	128か所	128か所	128か所																																							
配本数	67,312冊	73,751冊	67,735冊	64,779冊	68,066冊	71,717冊																																							
1か所当たり配本数	522冊	576冊	532冊	506冊	532冊	560冊																																							
年間貸出者数	24,538人	23,639人	17,623人	19,771人	19,346人	19,434人																																							
年間貸出冊数	50,568冊	55,490冊	39,864冊	42,455冊	40,418冊	39,570冊																																							
⑩ 貸出文庫の充実 図書館評価 B (B)	市民が気軽に本に接する機会を増やすため、幼稚園や保育所などの子育て関連施設や病院、高齢者施設などで利用されている貸出文庫の充実	【取組状況】 ● 各館において、施設の担当者へのヒアリングを行うなど、市民ニーズを把握しながら、幼稚園や保育所などの子育て関連施設、病院、高齢者施設などに配本を行った。 【評価の理由】 ● 施設からの申出により2か所減となったが、様々な施設に安定して貸出文庫を設置、配本できているとして「B」評価と判断した。 【貸出文庫の状況】 <table><tr><th></th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>※R5年度</th><th>R6年度</th></tr><tr><td>設置施設</td><td>92か所</td><td>91か所</td><td>95か所</td><td>96か所</td><td>95か所</td><td>93か所</td></tr><tr><td>配本数</td><td>22,240冊</td><td>23,750冊</td><td>21,662冊</td><td>21,796冊</td><td>(12,049冊)</td><td>23,063冊</td></tr></table> ※令和5年8月の図書館情報システム更新により、令和5年度の配本数は、9～3月実績（4～8月を除く）を計上		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	※R5年度	R6年度	設置施設	92か所	91か所	95か所	96か所	95か所	93か所	配本数	22,240冊	23,750冊	21,662冊	21,796冊	(12,049冊)	23,063冊																						
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	※R5年度	R6年度																																							
設置施設	92か所	91か所	95か所	96か所	95か所	93か所																																							
配本数	22,240冊	23,750冊	21,662冊	21,796冊	(12,049冊)	23,063冊																																							

【北九州市立図書館協議会による評価】			
協議会として、この評価で妥当と判断する。 今後も、市立図書館の特徴を活かし、大学図書館などとの連携やクーリングシェルターとしての利用など、さまざまな機会を捉えて市民と本との出会いの機会を提供してほしい。			

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1)レファレンスの強化	①相談内容のデータベースの充実 図書館評価 B(B)	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようになるため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	【取組状況】 ●中央図書館参考資料室を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。なお、平成30年以降毎年、新規登録件数や登録事例の被参照件数の実績などが評価され、国立国会図書館から御礼状を贈られている。 ●本市のレファレンス事例がレファレンス協同データサービスのHPアクセスランキングTOP5に複数回ランキングされたり、書籍に掲載されたりするなどした。 ●登録したレファレンスの内容については、市立図書館ホームページにレファレンス協同データベースのリンクを貼ることにより、随時、最新の内容にアクセスできるようにしている。 【評価の理由】 ●レファレンス事例の積み重ねに努めるとともに、インターネットから容易にレファレンス事例にアクセス可能な状態を作っていることから、「B」評価と判断した。
	②レファレンス担当職員的能力向上 図書館評価 B(B)	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員の能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	【取組状況】 ●福岡県立図書館主催のレファレンス研修会に複数館から職員が出席した。 ●各館において、パスファインダーの更新を行った。 ●公益社団法人図書館振興財団より講師を招いての調べる学習に関する職員向け研修会を開催した。 【評価の理由】 ●様々な機会を捉えてレファレンス担当職員が研鑽に励み、実務にも活かしていることから、「B」評価と判断した。
	③レファレンス用図書・資料の充実 図書館評価 B(B)	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	【取組状況】 ●各館において、各種レファレンス用資料(事典・辞書類、図鑑、統計類など)の新規購入や新版への更新、行政資料の寄贈受入れなどを行った。 【評価の理由】 ●レファレンス用資料の充実に努めていることから「B」評価と判断した。

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 特色ある図書館づくり	④課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施 図書館評価 B(B)	・標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けるなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別配架の実施 ・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援	【取組状況】 ●各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ。 ●子ども図書館及び各地区館・分館に子育て支援コーナーを設置し、妊娠・出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えた。 ●各館において保健福祉局等と連携し、啓発月間等にあわせて、認知症、発達障害、児童虐待防止、自殺防止に関するコーナーを随時設置した。 ●各館においてゲートキーパー養成講座、無料経営相談会、ビジネス支援セミナー、親子向けITセミナー講座など、課題解決支援のための多彩な講座を開催した。 ●中央図書館において、利用者が図書等を探す手助けとなるよう「はじめての図書館利用講座」を開催した。また、様々なテーマの特設展示コーナーを設置することで、利用者の課題解決支援に努めた。 ●子ども図書館において、引き続き、郷土資料コーナー、本市にゆかりのある作家コーナー、世界の絵本と地図のコーナーなど、特色あるコーナーを設け、子どもたちの課題解決支援を行うことができた。 【評価の理由】 ●課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実、講座の開催などに積極的に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。
	⑤地域の特性などを活かした図書館づくり 図書館評価 B(B)	特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施	【取組状況】 ●各館において地域の特性や地域住民のニーズに応じたコーナー設置等を行ったり、講演会等を開催したりするなど、特色のある図書館づくりを行った。 ・門司図書館：懐かしの映画の上映会、地域ゆかりの人物の歴史ミニ講座開催、門司港地区の昔と今の写真展開催 ・小倉南図書館：小倉南区の城跡や遺跡についてのパネル展示、地域の障害者団体・特別支援学校のアート作品展示 ・若松図書館：若松区の企業による会社紹介や社長・社員が選んだおすすめ本を紹介する「若松の本棚」コーナー設置 ・八幡図書館：「製鉄所関連本」「世界遺産」コーナー設置、八幡の風景にまつわる切り絵講座開催 ・八幡西図書館：タウンドシippデー「黒崎96の日」への参加 ・戸畑図書館：1960年代の戸畑区婦人協議会による環境活動コーナー設置 ・曾根分館：農業従事者向けの園芸関係本コーナー設置 ・島郷分館：併設の市民センタークラブ利用者に向けた趣味コーナー設置 【評価の理由】 ●各館において、地域の特性を活かした資料収集や提供を継続的に進めることができたため、「B」評価と判断した。

視点2 市民の課題解決を支援する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(2) 特色ある図書館づくり	⑥郷土資料の充実 図書館評価 B(B)	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	【取組状況】 ●各図書館において、購入及び寄贈により郷土に関する図書資料の受入れを行った。 ・門司図書館：門司、下関関連資料 など ●子ども図書館の「ふるさと再発見コーナー」、八幡図書館の八幡製鐵所関連コーナーなど、各館において、郷土の特色や地元ゆかりの作家などを紹介する特設コーナーを引き続き設置し充実に努めた。 【評価の理由】 ●郷土資料の収集を着実に行うとともに、市民に郷土の魅力を紹介する取り組みを継続的に進めていることから、「B」評価と判断した。
	最寄りの文化施設との連携 再掲 視点1②	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	(略)
	地元ゆかりの作家作品の充実 再掲 視点1③	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展時の開催	(略)
	市立図書館における観光情報などの提供 再掲 視点1⑧	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	(略)
【北九州市立図書館協議会による評価】			
協議会として、この評価で妥当と判断する。 市民の課題解決のための多様な機関等との連携や各館の地域性を活かした取組を行っており、評価できる。さらに、相談内容の協同データベース登録などについても十分に取り組まれているため、もっと高く評価してもよいと感じた。今後も、市民の課題解決を支援するために、北九州市立図書館として独自性のある取組を行ってほしい。			

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																				
(1) 子どもの読書活動の推進	①子ども図書館の整備 平成30年度完了事業	北九州市子ども読書活動推進条例で定められた、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」を整備し、子ども図書館にふさわしい図書・資料を充実																					
	②子ども図書館における子育て・家庭教育支援用などの図書・資料の充実 図書館評価 B(B)	子ども向けの絵本や図書・資料のみでなく、大人も利用できる、子育てや家庭教育支援用の図書・資料の充実	【取組状況】 ●子ども図書館の2Fに児童図書研究室を設け、引き続き家庭教育支援用等の図書を収集した。 ※令和6年度末蔵書数5,831冊(令和5年度末:5,759冊) ●子ども図書館の地下1階に、子育て支援コーナーを設置し、妊娠・出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えた。 【評価の理由】 ●家庭教育支援用等の図書・資料の充実を図ることができたため、「B」評価と判断した。																				
	③「はじめての絵本事業」の実施 図書館評価 A(A)	早い時期から子どもの読書に関心をもってもらうため、新生児家庭への家庭訪問時に絵本を配付する「はじめての絵本事業」を実施	【取組状況】 ●区役所保健福祉課の協力を得て、新生児家庭への訪問事業の際に、子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」の絵本パックの配付を行った。また、里帰り出産等で家庭訪問を受けられなかった方や、訪問時期を過ぎて北九州市に転入した方には、最寄りの図書館で絵本パックを配付した。 【評価の理由】 ●絵本パックの配付方法は変更したが、他の部局の協力を得て、直接家庭に絵本を届けることができたため、「A」評価と判断した。																				
	④絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施 図書館評価 A(B)	子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせやおはなし会などを実施	【取組状況】 ●子ども図書館や地区図書館・分館で、感染対策を行いながら、絵本の読み聞かせやおはなし会を開催した。前年度と比較すると、回数、参加者数ともに増加した。 【評価の理由】 ●回数、参加者数ともに前年度より増加しており、読書に親しむ環境づくりを行うことができたため、「A」評価と判断した。 【読み聞かせ・おはなし会実施状況】 <table><tr><td></td><td>R元年度</td><td>R2年度</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>765回</td><td>69回</td><td>317回</td><td>637回</td><td>715回</td><td>817回</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>13,586人</td><td>1,298人</td><td>3,574人</td><td>7,124人</td><td>8,761人</td><td>10,012人</td></tr></table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	回数	765回	69回	317回	637回	715回	817回	参加者数	13,586人	1,298人	3,574人	7,124人	8,761人
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																	
回数	765回	69回	317回	637回	715回	817回																	
参加者数	13,586人	1,298人	3,574人	7,124人	8,761人	10,012人																	

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) 子どもの読書活動の推進	⑤図書館における子ども向け相談窓口の充実 図書館評価 B(B)	子どもたちが調べごとのために図書館へ来た時、気軽に相談できるように、子ども専用のレファレンス窓口を設け、調べ学習などが行いやすい環境を提供	【取組状況】 ●子ども図書館の受付カウンター2ヶ所にレファレンス窓口を設けるなど、各図書館で子どもの相談に応じる窓口を設けている。 ●その他、門司図書館、小倉南図書館、若松図書館、八幡西図書館及び戸畑図書館に子ども専用レファレンス窓口を設けている。 【評価の理由】 ●調べ学習などで気軽に相談できる環境を引き続き提供できたため、「B」評価と判断した。
	⑥調べ学習用図書・資料及び「調べ方マニュアル」の充実 図書館評価 B(B)	小・中学校と連携して、それぞれの児童・生徒に応じた調べ学習用の図書・資料や調べ方マニュアルを充実	【取組状況】 ●各館において調べ学習用図書を積極的に購入している。 ●図書館ホームページ及び子ども図書館ホームページに、調べ方マニュアルを掲載している。(小学生・中学生向け) ●各図書館で、図書館の利用方法や本の探し方についてのリーフレットやパスファインダーを作成したり、既存の資料で内容を更新したものを、来館した児童生徒に配布した。 ●子ども図書館ホームページに「テーマ別資料リスト」や「調べもののおてつだい」、「レファレンス」を掲載している。また、図鑑、辞典、SDGs関連資料や、児童文学研究書を購入し、活用している。 【評価の理由】 ●調べ学習を支援することができたため、「B」評価と判断した。
	⑦ヤングアダルト向け図書・資料の充実 図書館評価 B(B)	読書から遠ざかりがちな中・高校生のために、ヤングアダルト向け図書・資料を充実	【取組状況】 ●各館において、ヤングアダルト世代に人気のある小説、ライトノベル、進路、思春期の悩み、生き方、考え方に関する本等を購入して充実を図るとともに、ヤングアダルトコーナーを設置した。 ●子ども図書館では、ホームページに「中高生(ティーンズ)向けのページ」を掲載するとともに、ライトノベルや自己啓発などに役立つ図書を揃えたティーンズコーナーを設置してしており、令和6年度も新たにライトノベルを増やすなど、さらにコーナー充実させた。 【評価の理由】 ●ティーンズ層を取り込む環境づくりを行うことができたため、「B」評価と判断した。
	⑧家読(うちどく)の推進 図書館評価 B(B)	家庭教育向上の基礎となる親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書の情報提供や家読コーナーを設置	【取組状況】 ●地区図書館及び分館において、家読コーナーを設置し、コーナーには、「家読ブックガイド」、「おすすめ本リスト」を備え付け、家読に適したおすすめ図書の紹介や展示に取り組んだ。 ●子ども図書館では、保育所・幼稚園、学校に配布した「夏の読書カード」に、「家読にチャレンジ」というページを設け家読の周知に努めた。また、館内の特設コーナーに、読書カード及び発達段階に応じた「おすすめ本」を展示した。 【評価の理由】 ●家読の推進を図ることができたため、「B」評価と判断した。

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																				
(1) 子どもの読書活動の推進	⑨地域人材の育成 図書館評価 B(B)	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、子ども図書館や地区図書館で研修を実施	【取組状況】 ●子ども図書館では、地域で読み聞かせを行う人材を育成するため、「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」(初級コース・中級コース・ストーリーテリング・ブックトーク)を開催した。令和5年度に引き続き、受講希望者が多い初級コースの定員を増やすとともに、学校で活動している読み聞かせボランティアに、学校を通して参加を募った。 ●戸畑図書館では、高校生による読書会「戸畑ブッククラブ」を開催し、読書会の手法・効用などについて学ぶ機会を提供している。 【評価の理由】 ●令和5年度と同様の規模で全講座を実施することができ、地域人材の育成を図ることができたため、「B」評価と判断した。 【講座実施状況(子ども図書館)】 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成初級</td><td>3回・23人</td><td>3回・30人</td><td>3回・30人</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成中級</td><td>3回・27人</td><td>3回・11人</td><td>3回・16人</td></tr><tr><td>ストーリーテリング</td><td>2回・11人</td><td>2回・14人</td><td>2回・15人</td></tr><tr><td>ブックトーク</td><td>3回・12人</td><td>3回・12人</td><td>3回・20人</td></tr></table>		R4年度	R5年度	R6年度	読み聞かせボラ養成初級	3回・23人	3回・30人	3回・30人	読み聞かせボラ養成中級	3回・27人	3回・11人	3回・16人	ストーリーテリング	2回・11人	2回・14人	2回・15人	ブックトーク	3回・12人	3回・12人	3回・20人
		R4年度	R5年度	R6年度																			
	読み聞かせボラ養成初級	3回・23人	3回・30人	3回・30人																			
読み聞かせボラ養成中級	3回・27人	3回・11人	3回・16人																				
ストーリーテリング	2回・11人	2回・14人	2回・15人																				
ブックトーク	3回・12人	3回・12人	3回・20人																				
⑩児童室担当職員の能力向上 図書館評価 B(B)	読み聞かせボランティアなどを養成する講座が実施できるような児童室担当職員のスキルアップ	【取組状況】 ●児童室担当職員が、子ども司書養成講座でブックトークの講師を担当したり、大型フェス会場にブース出展し、不特定多数の来場者を対象におはなし会を行ったりするなど、様々な場所で実践経験を積んだ。 【評価の理由】 ●読み聞かせ等の技能を知識として学ぶだけでなく、人前で実践する機会を増やすことで、スキルアップを図ることができたため、「B」評価と判断した。																					
⑪地区図書館における区役所や市民センターなどとの連携 図書館評価 B(B)	図書館職員や読み聞かせボランティアを市民センターや地域の子育てイベントなどに派遣し、子ども読書活動の推進につながる読み聞かせなどを積極的に実施	【取組状況】 ●各図書館には市民センターのイベント案内、市民センターには図書館だよりや児童書を含む新刊案内を設置するなど、相互に連携し、広報や集客に努めた。 ●市民センターにリサイクル本コーナー設置や司書の派遣を行い、区役所・市民センターと協力して、おはなし会、健康サロン、避難所運営ゲーム体験会などのイベントを開催した。 ●子ども図書館では、幼稚園の母親教室に職員を派遣し、絵本の選び方、読み聞かせの効用や方法等について講習を行った。 【評価の理由】 ●着実に連携して事業を実施しており、「B」評価と判断した。																					

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況												
(1) 子どもの読書活動の推進	⑫北九州市子ども読書の日の取組の充実 図書館評価 B(B)	全市的に子どもの読書活動の機運を高めるため、秋の読書週間に合わせ、市独自の「子ども読書の日」を設定	【取組状況】 ●子ども図書館では、スロットカーレース体験会、石うす体験会、オリジナル缶バッジ作り、市立高校による館内クイズラリー、中学生によるビブリアバトルなど、趣向を凝らしたイベントを行った。 ●地区図書館や分館で、おはなし会やブックリサイクル、絵本リストの配布、読書ノートの配布など、様々なイベントを行った。 ●次世代教育推進課と連携して、学校に対して周知するとともに、当該日前後の2週間に読書に関する指導や取組を促した。 【評価の理由】 ●前年度に引き続き、図書館に行ったことがない子どもにも興味を持ってもらうという視点でイベントを実施することにより、来館のきっかけづくりや、中高生の活動発表する機会の提供など、大きな成果を生み出すことができたため、「B」評価と判断した。												
	地元ゆかりの作家作品の充実 再掲視点1③	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	(略)												
(2) 学校における読書活動の支援	⑬学校向け団体貸出の充実 図書館評価 B(B)	小・中学校において、学習の一助とするために、図書・資料の学校への貸出を積極的に実施	【取組状況】 ●学校図書館教育講習会などの場を活用して団体貸出等の学校向けサービスについて周知し、積極的な利用を呼びかけた。 ●「学校向けサービスのご案内」リーフレットをKitaQせんせいチャンネルに掲載し、ダウンロードして利用できるようにした。 【評価の理由】 ●すべての地区館・分館で団体貸出が利用されており、学校における読書活動や調べ学習を支援することができたため、「B」評価と判断した。 【団体貸出利用状況】 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>※R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>貸出団体数</td><td>521団体</td><td>(313団体)</td><td>455団体</td></tr><tr><td>貸出冊数</td><td>4,749冊</td><td>(2,989冊)</td><td>4,231冊</td></tr></table> ※令和5年8月の図書館情報システム更新により、令和5年度は、9～3月実績（4～8月を除く）を計上		R4年度	※R5年度	R6年度	貸出団体数	521団体	(313団体)	455団体	貸出冊数	4,749冊	(2,989冊)	4,231冊
		R4年度	※R5年度	R6年度											
貸出団体数	521団体	(313団体)	455団体												
貸出冊数	4,749冊	(2,989冊)	4,231冊												
	⑭学校貸出図書セットの充実 図書館評価 B(B)	学校における読書活動や調べ学習などを推進するため、学年別・テーマ別に選んだ図書・資料を学級文庫や教材として使用する「学校貸出図書セット」を、より学校のニーズにあうように内容を充実	【取組状況】 ●学校図書館教育講習会などの場を活用して「学校貸出図書セット」について周知し、積極的な利用を呼びかけた。 ●人気のある絵本セットを増設するとともに、小学校国語教科書の改訂に合わせて、セット内容の更新・再編を行った。 ●中学校教科書改訂に際し、セットの更新準備をした。 ●教育支援室室長会議で周知し、教育支援室へも利用対象を広げた。 【評価の理由】 ●貸出件数は増加していないが、学校以外にも利用を対象を広げ、読書活動や調べ学習を支援することができたため、「B」と判断した。 【学校貸出図書セット利用状況】 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>貸出セット数</td><td>107セット</td><td>109セット</td><td>98セット</td></tr><tr><td>貸出件数</td><td>56件</td><td>73件</td><td>61件</td></tr></table>		R4年度	R5年度	R6年度	貸出セット数	107セット	109セット	98セット	貸出件数	56件	73件	61件
	R4年度	R5年度	R6年度												
貸出セット数	107セット	109セット	98セット												
貸出件数	56件	73件	61件												

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況															
(2) 学校における読書活動の支援	⑮図書館司書や読み聞かせボランティアの学校などへの派遣 図書館評価 B(B)	図書館司書や読み聞かせボランティアなどを学校に派遣し、調べ学習や読み聞かせなど、読書に関する取組みを支援	【取組状況】 ●司書・読み聞かせボランティア派遣や学校図書館に関する相談支援などについて、次世代教育推進課と連携した案内文やリーフレット配付、学校図書館教育講習会での周知などを通じて、積極的な利用を呼びかけた。 ●子ども図書館や地区図書館では、派遣依頼に基づき、図書館司書や読み聞かせボランティアを、学校、市民センター、少年支援室、放課後等デイサービスなどの子育て関連施設等に派遣し、読み聞かせやブックトークを行った。 【評価の理由】 ●派遣を依頼してきた学校や子育て関連施設には、希望に沿ったボランティア等を選び派遣することができ、件数も前年度を上回ったため、「B」評価と判断した。 【学校等への派遣件数】 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>司書派遣</td><td>6館59件</td><td>8館95件</td><td>10館127件</td></tr><tr><td>ボラ派遣</td><td>5館56件</td><td>5館90件</td><td>7館146件</td></tr></table>		R4年度	R5年度	R6年度	司書派遣	6館59件	8館95件	10館127件	ボラ派遣	5館56件	5館90件	7館146件			
		R4年度	R5年度	R6年度														
	司書派遣	6館59件	8館95件	10館127件														
ボラ派遣	5館56件	5館90件	7館146件															
⑯学校関係者（教員、学校図書館職員など）の人材育成支援 図書館評価 B(B)	子どもに一番身近な学校で読書推進活動を行う教員、学校図書館職員などに対して、図書館職員が専門的な研修を支援	【取組状況】 ●学校図書館教育講習会において、管理職や図書館主任、学校図書館職員に対して、図書館が行っている学校向けサービスについて説明を行った。 ●市立図書館を児童生徒の学習に活用できる教職員を増やすために、学校向けサービスを分かりやすく紹介するリーフレットの作成・配布を行った。 ●学校図書館を所管している関係課と連携し、ブックヘルパー向けの研修会を開催した。 【評価の理由】 ●学校図書館職員やブックヘルパーの資質向上を図る支援ができたため、「B」評価と判断した。																
⑰子ども司書の養成と活用 図書館評価 B(B)	子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を高めるため、 ・図書館で働く司書の仕事を学習する講座を開催し、子ども司書を育成 ・その子ども司書たちが学校で、読書活動推進のリーダー役となることを目指す	【取組状況】 ●7月から8月にかけて、3日間で「子ども司書養成講座」を開催した。 ●受講者は、2学期以降に各学校で読書活動の推進に取り組み、全員が報告書を提出した。 【評価の理由】 ●コロナ禍で削減した募集人員を増やしたが、定員を上回る応募があり、参加者全員が修了（子ども司書認定証授与）することができたため、「B」評価と判断した。 【子ども司書養成講座参加状況】 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>小学校</td><td>29人</td><td>29人</td><td>42人</td></tr><tr><td>中学校</td><td>7人</td><td>11人</td><td>18人</td></tr><tr><td>合計</td><td>36人</td><td>40人</td><td>60人</td></tr></table>		R4年度	R5年度	R6年度	小学校	29人	29人	42人	中学校	7人	11人	18人	合計	36人	40人	60人
	R4年度	R5年度	R6年度															
小学校	29人	29人	42人															
中学校	7人	11人	18人															
合計	36人	40人	60人															

視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																				
(2) 学校における読書活動の支援	⑮小・中・特別支援学校児童生徒の読書感想文募集の実施 令和5年度 終了事業	小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文章表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施																					
	⑯小・中・特別支援学校等との連携 図書館 評価 B (A)	図書館と小・中・特別支援学校等との連携を図るため、図書館だよりの発行や児童・生徒の図書館見学・職場体験の実施	【取組状況】 ●地区図書館や分館において、毎月「図書館だより」を作成し、近隣の小・中・特別支援学校等に配布した。 ●地区図書館や分館において、小中学生が作成した書写作品、おすすめ本紹介POP、防災マップなどを館内に掲示した。 ●分館において高校生による科学講座を実施した。 ●現行の「子ども読書プラン」における「小学校在学中の図書館見学の実施」に基づき、校長会等を通じ、学校へ図書館見学の実施について依頼した。学校からの見学等の希望に対し、子ども図書館と地区図書館が協力し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を受入れた。 ●子ども図書館や地区館において、展示スペースを学校図書館用に確保し、小中学校で取り組んだ読書活動の作品を展示した。 【評価の理由】 ●学校からの児童・生徒の図書館見学については一定水準を維持しているため、「B」評価と判断した。 【児童・生徒の図書館見学及び職場体験実施状況】 <table><tr><th></th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th></tr><tr><td>見学</td><td>13館84件 4,175人</td><td>11館62件 2,246人</td><td>13館118件 4,790人</td><td>13館247件 8,124人</td><td>13館265件 10,242人</td><td>14館235件 9,333人</td></tr><tr><td>職場体験</td><td>9館44件 154人</td><td>2館2件 2人</td><td>2館4件 11人</td><td>3館5件 13人</td><td>4館5件 16人</td><td>5館8件 19人</td></tr></table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	見学	13館84件 4,175人	11館62件 2,246人	13館118件 4,790人	13館247件 8,124人	13館265件 10,242人	14館235件 9,333人	職場体験	9館44件 154人	2館2件 2人	2館4件 11人	3館5件 13人	4館5件 16人
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																	
見学	13館84件 4,175人	11館62件 2,246人	13館118件 4,790人	13館247件 8,124人	13館265件 10,242人	14館235件 9,333人																	
職場体験	9館44件 154人	2館2件 2人	2館4件 11人	3館5件 13人	4館5件 16人	5館8件 19人																	
【北九州市立図書館協議会による評価】																							
協議会として、この評価で妥当と判断する。 「はじめての絵本事業」では、配付方法を変更して確実に家庭に届くようにしたことが評価できる。北九州市子ども読書の日の取組についても、とても良い取組であり、よりいっそうの充実を図ってほしい。今後も、読書の入口として漫画やライトノベルなどをさらに充実させるなど、子どもの読書活動の推進のために取り組んでほしい。																							

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況														
(1) 情報化への対応	①Wi-Fiの整備 図書館評価 B (C)	スマートフォンなど携帯端末の普及が進んでいるため、図書館のWi-Fi環境を整備	【取組状況】 ●令和6年度は、中央図書館のフリーWi-Fiを新サービスへ移行し、Wi-Fi利用環境の向上を図った。 また、Wi-Fi未整備の地区館への令和7年度中の導入について検討を進めた。(令和6年度末時点の整備済み館数:6館)。 【評価の理由】 ●Wi-Fi環境の向上や令和7年度の追加整備の検討を進めたことから、「B」評価と判断した。 【運営改善措置】 ●引き続き、Wi-Fi環境の整備や改善に努めていく。														
	②図書館におけるホームページの充実 図書館評価 B (A)	利用者が見やすく、使いやすいホームページとなるように、 ・子ども図書館の開館にあわせ、ホームページを開設 ・中央図書館や地区図書館のホームページの見直し	【取組状況】 ●ホームページのトップページに重要な事項を一定期間掲載できるよう、「重要なお知らせ」機能を追加した。 また、利用者からの意見を反映し、各館の駐車場の具体的なご案内を追加掲載した。 【評価の理由】 ●継続して、ホームページの内容充実を図っていることから、「B」評価と判断した。														
	③郷土資料のデジタル化の推進 図書館評価 B (B)	資料のデジタル化に関する情報収集や研修などを行い、郷土資料のデジタル化を推進	【取組状況】 ●中央図書館では、これまで、所蔵する郷土資料の一部(門司新報、小笠原文庫、古地図、写真など)をデジタル化や民間団体と協力したガラス乾板のデジタル化などを行い、利用者に提供している。 ●令和6年度は、中央図書館及び若松図書館で、若松石炭協会資料、戸畑図書館では「青空がほしい」関連資料のデジタル化を行った。 【評価の理由】 ●郷土資料のデジタル化を継続して実施したため、「B」評価と判断した。														
	④子ども向け電子図書館の充実 図書館評価 A (B)	コロナ禍の読書や学習機会の確保等を目的に、子ども向け電子図書館の充実(子ども向け電子書籍貸出サービスの開始)	【取組状況】 ●民間資金等を活用し、子ども向けの書籍だけでなく、高校生や大人も楽しめる書籍を多数導入するなど蔵書の充実を図った。 ●令和5年度に、電子図書館の利用登録に電子申請制度を導入した結果、電子申請による登録者が600名を超え、新たな利用者の獲得につながっている。 【評価の理由】 ●登録者数に対する貸出件数は、大人向けの書籍を増やしたことや、電子申請による利用登録を導入したこと、また、改めて学校へ利用の呼びかけを行ったため、令和4年度、令和5年度に比べて増加している。少しずつ利用実績が好転していることから、「A」評価と判断した。 【子ども電子図書館の利用状況】 <table><tr><td></td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>利用登録者数</td><td>76,156人</td><td>84,256人</td><td>91,559人</td><td>99,216人</td></tr><tr><td>貸出件数</td><td>16,672冊 ※開設初年度</td><td>7,221冊</td><td>5,694冊</td><td>9,862冊</td></tr></table>		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	利用登録者数	76,156人	84,256人	91,559人	99,216人	貸出件数	16,672冊 ※開設初年度	7,221冊	5,694冊
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度													
利用登録者数	76,156人	84,256人	91,559人	99,216人													
貸出件数	16,672冊 ※開設初年度	7,221冊	5,694冊	9,862冊													

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況												
(2) ニーズに応じたサービスの提供	⑤高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実 図書館 評価 A (B)	バリアフリー化や大活字本の充実を図るなど、高齢者を含め、あらゆる人が利用しやすいサービスの充実	【取組状況】 ●各館において、障害のある方に配慮した資料（LLブック、朗読CDなど）の収集を行った。 ●各館において、高齢者や弱視者も読みやすい資料である「大活字本」収集の充実を図った。 ●中央図書館では、身体障害等により来館が困難な方を対象とした「郵送貸出」サービスを継続して行った。また、視覚障害等により墨字図書の利用が困難な方については、デージー図書・デージー再生機等の貸出を行う「録音図書等貸出」サービスを継続して行った。 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>郵送貸出登録者数</td><td>94名</td><td>100名</td><td>107名</td></tr><tr><td>録音図書等貸出登録者数</td><td>4名</td><td>12名</td><td>15名</td></tr></table> ●中央図書館、小倉南図書館、八幡図書館、八幡西図書館において館内に拡大読書機を設置している。また、各館において拡大鏡やリーディングトラッカーの館内貸出、コミュニケーションボードの設置等を行っている。 ●中央図書館では、点字図書館、市所管課の3者で定期的に会合を開き、それぞれの提供サービスの確認・整理をはじめ、読書バリアフリー推進のために継続して協議を行った。 ●中央図書館では、図書館まつりにあわせ、点字図書館利用者を対象とした図書館体験ツアー、意見交換会及びよむべえ操作研修会を開催した。 ●各館において、外国語資料の収集・提供を行った。 ●子ども図書館では、多文化・多言語の子ども達も楽しめるよう、春休み期間中に、小中学校で英語の指導補助を行っているALT（Assistant Language Teacher）による英語の読み聞かせ会を行った。 ●中央図書館では、やさしい日本語や外国語で書かれた利用案内リーフレットの配布や、やさしい日本語で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組を継続して行った。 【評価の理由】 ●高齢者などあらゆる人が利用しやすい図書館サービスの充実に継続的に努めたため、「A」評価と判断した。		R4年度	R5年度	R6年度	郵送貸出登録者数	94名	100名	107名	録音図書等貸出登録者数	4名	12名	15名
		R4年度	R5年度	R6年度											
郵送貸出登録者数	94名	100名	107名												
録音図書等貸出登録者数	4名	12名	15名												
⑥子ども用トイレや授乳室等の設置 図書館 評価 C (C)	子どもと一緒に利用しやすい図書館づくりを目指すため、図書館整備にあわせ、子ども用トイレや授乳室等を整備	【取組状況】 ●門司図書館の移転検討に合わせ、移転先の複合公共施設内への授乳室等の設置について協議を進めた。 【評価の理由】 ●具体的な整備は行っていないことから、「C」評価と判断した。 【運営改善措置】 ●引き続き、設置に向けた協議を進めていく。													

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																					
(2) ニーズに応じたサービスの提供	⑦図書館以外での本の返却 図書館評価 B(B)	利用者の利便性の向上を図るため、駅など図書館以外で本を返却できるように、返却ボックスを設置	【取組状況】 ●小倉駅構内及び黒崎駅に隣接するコムシティ入口の2か所に返却ボックスを設置（平成29年7月）し、年末年始を除く毎日、利用に供している。 【評価の理由】 ●返却ボックスは一定の利用があり、非来館型サービスのひとつとして利用者の利便性向上に寄与していることから、「B」評価と判断した。 【返却ボックス利用状況】 <table><tr><th></th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th></tr><tr><td>小倉</td><td>27,593冊</td><td>18,776冊</td><td>27,165冊</td><td>26,939冊</td><td>26,985冊</td><td>29,181冊</td></tr><tr><td>黒崎</td><td>10,819冊</td><td>7,034冊</td><td>9,603冊</td><td>10,158冊</td><td>9,732冊</td><td>11,224冊</td></tr></table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	小倉	27,593冊	18,776冊	27,165冊	26,939冊	26,985冊	29,181冊	黒崎	10,819冊	7,034冊	9,603冊	10,158冊	9,732冊	11,224冊
		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																	
	小倉	27,593冊	18,776冊	27,165冊	26,939冊	26,985冊	29,181冊																	
黒崎	10,819冊	7,034冊	9,603冊	10,158冊	9,732冊	11,224冊																		
⑧CD、DVD資料の充実 図書館評価 B(B)	図書館整備にあわせて、市民から要望のあるCDやDVDなど視聴覚資料の貸出コーナーを設置	【取組状況】 ●これまで各地区館の新設・改修などに併せて、視聴覚資料（CD・DVD）の継続購入に加え貸出を行える館の拡充に取り組み、令和6年度末現在、中央図書館、子ども図書館及び地区館4館（小倉南、八幡、八幡西、戸畑）で館外貸出や館内閲覧の利用に供している。 【評価の理由】 ●視聴覚資料の活用及び資料の充実について着実に取り組むことができたため、「B」評価と判断した。 【CD・DVD貸出所蔵点数（全館計）】 <table><tr><th></th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th></tr><tr><td>貸出点数</td><td>111,181点</td><td>70,288点</td><td>81,887点</td><td>79,008点</td><td>70,906点</td><td>63816点</td></tr><tr><td>所蔵点数</td><td>17,251点</td><td>17,941点</td><td>18,456点</td><td>18,803点</td><td>18,957点</td><td>19,185点</td></tr></table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	貸出点数	111,181点	70,288点	81,887点	79,008点	70,906点	63816点	所蔵点数	17,251点	17,941点	18,456点	18,803点	18,957点	19,185点	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																		
貸出点数	111,181点	70,288点	81,887点	79,008点	70,906点	63816点																		
所蔵点数	17,251点	17,941点	18,456点	18,803点	18,957点	19,185点																		
⑨市民の学習活動の場や図書・資料などの提供 図書館評価 B(B)	読書会や郷土史会など、市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備、図書、資料などを提供	【取組状況】 ●読書会等への活動支援を継続して行った。 ●各館において、調べ学習講座や読書感想文講座等を開催するとともに学校での学習用の図書を提供した。 ●中央図書館では、小倉郷土会との共催で概ね毎月「郷土文化講演会」を開催したが、同会会員が講師選定、受付等を担うなど、同会の知見、人材を活かす機会となった。 ●子ども図書館では、見学等で来館した児童・生徒に対して、図書館利用についての説明を行った。また、調べ学習に使う図書資料に関する相談を受け、資料の紹介や提供を行った。 【評価の理由】 ●継続して市民の学習活動に対する支援に努めたことから、「B」評価と判断した。																						

視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(3) 親しみやすい図書館づくり	⑩くつろいで読書のできる環境の充実 図書館評価 A(B)	・カフェテリアを設けるなど、くつろいで読書ができるように図書館の読書環境を整備 ・カフェテリアが街のにぎわいづくりに寄与するように、イベントなどの企画を検討	【取組状況】 ●中央図書館エントランスホールのレイアウト変更(ソファやいすの設置、書架の移動等)を行うとともに、図書の新着案内等を行う大型モニターを設置するなど、よりくつろげる空間を創出した。 ●図書館のカフェテリアについては、安心してくつろいで読書できる環境を提供できた。提供されるメニューも好評であり、集客力があるため街の賑わいづくりに寄与した。 ●子ども図書館では寝ころびスペースやベンチ、1人掛け用のソファなど多様な閲覧スペースを提供した。飲食も可能なリフレッシュコーナーを新設し、くつろげるスペースを広げた。 ●文学館と中央図書館カフェの仲介役となり、文学館企画展とのコラボメニューの開発に寄与した。 【評価の理由】 ●中央図書館エントランスの改善やリフレッシュコーナーの新設などにより、くつろぎの場の拡大や質の向上ができた。また、カフェテリアは街の賑わいづくりに貢献したため「A」評価と判断した。
	⑪来館のきっかけづくりの提供 図書館評価 A(A)	これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるように、図書・資料の配架や開催する講座、イベントなどを充実	【取組状況】 ●各館において、これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるような催しや取組を行った。 ・中央図書館:新刊及びおすすめ本に関する情報を市職員掲示板に掲載した。そのうち、おすすめ本情報については、中央図書館エントランスホールにモニターを新たに設置し、来館者にもお知らせするようにした。 ・門司図書館:門司港地域のお祭りに参加し、ブックリサイクルやボードゲーム体験会を実施 ・若松図書館:フードパントリー、おすすめ本を選んでPOPとともに棚を飾る一箱本棚のワークショップの開催、若松みなとまつりに参加 ・八幡図書館:地域の公共施設との共同イベント「やはたアートフォレスト」、市民の手作り作品展、職員によるピアノコンサートの開催 ・八幡南分館:近隣幼稚園卒園児作成の壁面展示 ●子ども図書館では、読書履歴を記録する「読書通帳」の運用を継続するとともに、ダウンロード版の読書通帳を作成し、ホームページや館内表示による周知を行っている。 ●「北九州市子ども読書の日」の取組みとして、子ども図書館では、スロットカーレース体験会、石うす体験会、オリジナル缶バッジ作り、北九州市立大学の学生による平和の展示、北九州市立高校生によるクイズラリー、中学生によるビブリオバトルなど、趣向を凝らしたイベントを開催した。また、地区図書館や分館でも、おはなし会やブックリサイクル、絵本リストの配布、読書ノートの配布など、様々なイベントを開催した。 ●その他各館において、近隣の自治会との協力により図書館だよりを回覧したり、小中学校・幼稚園・保育園、病院等各種施設に図書館だより、新刊案内、行事チラシ等を設置したりして広報に努めた。 【評価の理由】 ●各館でのイベントや「北九州市子ども読書の日」に際した様々なイベントの実施により、市民が図書館に足を運ぶきっかけを提供できたとして、「A」評価と判断した。
【北九州市立図書館協議会による評価】			
協議会として、この評価で妥当と判断する。 誰もが気軽に図書館を利用できるよう、ホームページを活用し施設紹介を充実してはどうか。今後、市民の来館のきっかけづくりとして、ビブリオバトルなどのイベントの充実や、著名人や市民によるおすすめ本紹介コーナーの設置などにも取り組んでほしい。			

視点5 市民参画型図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況																				
(1) ボランティアの育成と活用	①読み聞かせボランティア養成講座の充実 図書館評価 A(B)	読み聞かせボランティアの専門性を高めるため、ストーリーテリングやブックトークなどの技術を学ぶ講座を実施	【取組状況】 ●子ども図書館では、「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」として、初級及び中級コースを3回ずつ、ストーリーテリング講座を2回、ブックトーク講座を3回実施。また、令和5年度に引き続き、受講希望者が多い初級コースの定員を増やすとともに、学校で活動する読み聞かせボランティアに、学校を通して参加を募った。 【評価の理由】 ●全講座を実施することができ、学校で活動している読み聞かせボランティアの方々が、すぐに実践の場で活かせる講座を提供できたことなど、地域人材の育成を図ることができたため、「A」評価と判断した。 【講座実施状況】 <table><tr><td></td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成初級</td><td>3回・23人</td><td>3回・30人</td><td>3回・30人</td></tr><tr><td>読み聞かせボラ養成中級</td><td>3回・27人</td><td>3回・11人</td><td>3回・16人</td></tr><tr><td>ストーリーテリング</td><td>2回・11人</td><td>2回・14人</td><td>2回・15人</td></tr><tr><td>ブックトーク</td><td>3回・12人</td><td>3回・12人</td><td>3回・20人</td></tr></table>		R4年度	R5年度	R6年度	読み聞かせボラ養成初級	3回・23人	3回・30人	3回・30人	読み聞かせボラ養成中級	3回・27人	3回・11人	3回・16人	ストーリーテリング	2回・11人	2回・14人	2回・15人	ブックトーク	3回・12人	3回・12人	3回・20人
		R4年度	R5年度	R6年度																			
	読み聞かせボラ養成初級	3回・23人	3回・30人	3回・30人																			
読み聞かせボラ養成中級	3回・27人	3回・11人	3回・16人																				
ストーリーテリング	2回・11人	2回・14人	2回・15人																				
ブックトーク	3回・12人	3回・12人	3回・20人																				
②図書館ボランティアの育成 図書館評価 B(B)	市民が図書館運営の担い手となるように、図書館において館内案内や配架などの図書館業務を行う図書館ボランティアを育成	【取組状況】 ●中央図書館では、図書館ボランティア養成講座を開催し、ほとんどの修了者は、希望の館においてボランティア活動に参加しているが、令和3年度以降は養成講座の受講人数を例年の半分程度に限定している。 ●ボランティア登録者数(令和7年度に向けた活動継続希望者)は前年度末よりも増加した。 ●中央図書館では、ボランティア実務研修会を兼ねて講演会「幸運な人と不運な人とを隔てるものは何か!～超高齢社会 あなたにもっと、活躍の場が」を開催した。 【評価の理由】 ●令和3年度以降は、より手厚い育成を行うため、受講者数を絞って実施しているが、登録者数は増加しているため、「B」評価と判断した。 【ボランティア養成状況】 <table><tr><td></td><td>R元年度</td><td>R2年度</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>養成講座修了者</td><td>57人</td><td>中止</td><td>26人</td><td>29人</td><td>27人</td><td>30人</td></tr><tr><td>ボランティア登録者</td><td>322人</td><td>263人</td><td>241人</td><td>243人</td><td>247人</td><td>255人</td></tr></table>		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	養成講座修了者	57人	中止	26人	29人	27人	30人	ボランティア登録者	322人	263人	241人	243人	247人	255人
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																	
養成講座修了者	57人	中止	26人	29人	27人	30人																	
ボランティア登録者	322人	263人	241人	243人	247人	255人																	
③ブックヘルパーの人材育成支援 令和4年度終了事業	学校図書館で図書・資料の整理、補修や読み聞かせなどを行うブックヘルパーが活動しやすくなるように、図書館職員が研修を支援するなど、学校における読書活動に協力																						

視点5 市民参画型図書館

※「図書館評価」の()内は、前年度(令和5年度)の評価

方向性	具体的取組	事業概要	取組状況
(1) ボランティアの育成と活用	④読み聞かせボランティアバンクの充実 図書館評価 B(B)	読み聞かせなどを希望する子育て施設や学校に対し、ボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、 ・読み聞かせボランティアバンクの充実 ・地区図書館ごとのボランティアバンクの設立の検討	【取組状況】 ●「児童サービス担当者会議」等を通し、地区図書館や学校などで活動する読み聞かせボランティアの情報を引き続き各地区図書館と共有し、学校や市民センター、教育支援室、放課後等デイサービス等への派遣を行った。 【評価の理由】 ●子どもの読書活動推進のためのネットワークを維持することができたため、「B」評価と判断した。
	地域人材の育成 再掲 視点3④	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	(略)
(2) 開かれた図書館づくり	⑤図書館協議会の充実 図書館評価 A(A)	多様化する図書館へのニーズに対応し、効率的で効果的なサービスが提供できるように、図書館協議会の充実に努め、時代に即した図書館づくりを推進	【取組状況】 ●令和6年度は図書館協議会を4回開催した。 ●「これからの図書館のあり方」についての中央図書館館長からの諮問に対し、図書館協議会で答申を受けた。その答申の内容を踏まえ、基本計画の策定を進めた。その間、図書館評価や基本計画の素案の協議を重ねながら実施したパブリックコメントも踏まえ修正案について協議を行った。 ●令和6年度の委員改選では、図書館運営や基本計画の実践などにあたり、ビジネス支援充実や市民意見の反映などの観点からも適切に助言等がいただけるよう、学識経験者や公募委員を新たに選出した。公募委員の応募にあたっては、郵送・持参の他、新たに電子申請を追加し、募集機会の充実を図った。 【評価の理由】 ●委員から活発な意見が出され有意義な協議ができた。その結果、基本計画が策定され、今後の図書館の運営やサービスの道しるべとなったことから、評価を「A」評価と判断した。
	⑥運営に関する評価の実施 図書館評価 A(A)	図書館運営に関する評価を行い、広く公表するとともに、運営の改善を実施	【取組状況】 ●評価の取組時期を早め、図書館協議会への報告を行い、ホームページでの公表等、迅速に行った。 ●図書館協議会による外部評価をいただくことで、より内容を吟味し課題を真摯に受け止め、各課において改善するとともに、次年度につなげられるようにした。 ●令和7年度からの図書館基本計画の具体的な取組を視野に入れながら、次年度の計画の枠組みを検討した。 【評価の理由】 ●事務処理の迅速化に努め、評価等の検討・公表の段取り等の改善を行った。また、運営改善措置の内容に基づき、各課において運営の改善に努めたことから、評価を「A」評価と判断した
【北九州市立図書館協議会による評価】			
協議会として、この評価で妥当と判断する。 引き続き、中央図書館・子ども図書館が中心となり、幅広い世代のボランティアの育成や学校・地域等との連携などに努めてほしい。			